

# 住まい 私記

世界中の若者が一緒に暮らす家が東京都中野区にある。英語が飛び交う暮らしの中、大学4年生の目黒翔太さん(21)は様々な考え方に出会い、就職活動にも役立ったという。

私が暮らす「ボーダレスハウス新宿中野」には今、17人が暮らしています。日本人8人のほか、イギリス、スウェーデン、トルコ、ロシア、韓国など様々な国から来日した人々がいます。運営会社は、日本人と外国人の割合がだいたい半々になるように募集しています。語学留

## ひとつ屋根の下で③



学生が多いです。会話は英語と日本語の両方使います。建物は3階建てで、個室10部屋に相部屋が3室あります。私

は相部屋で、家賃は光熱費込みで5万9千円です。シャワールームが2カ所、トイレや洗濯機は各階にあります。

▶同居する外国人らとリビングで談笑する目黒さん(左から2番目)＝写真上＝、「ボーダレスハウス新宿中野」の外観＝写真下。外国人にとっても、日本語を学ぶ機会となっている。



## 世界の若者ととともに学ぶ

昨春から暮らしています。新澗から大学進学のため上京し、一人で暮らしていましたが、大学やバイトで知り合う仲間は、年齢層や価値観も似ており、世界が狭いと感じていました。騒音でもめたりと、小さなトラブルはあります。私の場合、相部屋のイギリス人が騒いで眠れないことも。でも、これも相部屋の醍醐味だと思い、受け入れています。

共有部の掃除は気づいた人がしますが、去年、誰もしない事態に陥りました。これはいけないと、運営会社のスタッフと対策を相談しました。まずは私が率先して掃除する姿を見せ、手伝うように声をかけるようにすると、徐々に改善されました。当初、英語の会話はさっぱり理解できませんでした。それでも、日常的に英語に触れる中で、少しずつ聞き取れるように。英語への精神的なバリアが取り除かれ、正しい英語でなくとも通じればいい、と物おじしなくなりました。

「年齢に関係なく、やりたいことをやる」という外国人の考え方に驚きました。20代後半で来日して、研究者や翻訳者になる夢を追いかけている人もいます。日本人の同居人も、料理人からメーカーキャップアーティスト、女優を目指す人など、いろんな人たちが知り合えました。今春の就職活動では、安定志向は捨て、独り立ちできる力を身につけられる会社に就職しよう、決めました。シェアハウスでの体験もアピールして、ベンチャー系のIT企業に内定をもらいました。海外勤務にも挑戦しようと思っています。

も、日常的に英語に触れる中

(聞き手・岩井建樹)